

本物体験通じて主体性育む

相撲部屋で稽古の厳しささ体感

相撲部屋の朝稽古訪問、全国高校生花いけバトル大会への挑戦、ゴルフ講座での人格形成など、さまざまな本物体験を通して、生徒たちに将来、役立つ力を付けてもらうおうと、茨城県立小瀬高校(常井安文校長、生徒153人)はユニークな取り組みを続けている。明治32年に村立の農業補習学校として開校し、来年には120周年を迎える。小規模ながら、地域に愛される学校でもある。「学校は地域のシンボル。高校を核とした持続可能な地域づくりを目指したい」と常井校長は話す。

6月上旬の早朝、東京都荒川区内の住宅街の一角。土俵で藤島部屋に所属する力士同士がぶつかる音や、荒い呼吸音だけが聞こえてくる。

茨城県にある小瀬高校を午前5時にバスで出発、ようやくたどり着いた2年生36人が見学席で、ぶつかるごとに砂まみれになっていく力士らの稽古の激しさ

を、息をのんで見詰めている。携帯電話禁止、私語禁止。空気の張り詰めた朝稽古は、生徒たちにとっては別世界だ。

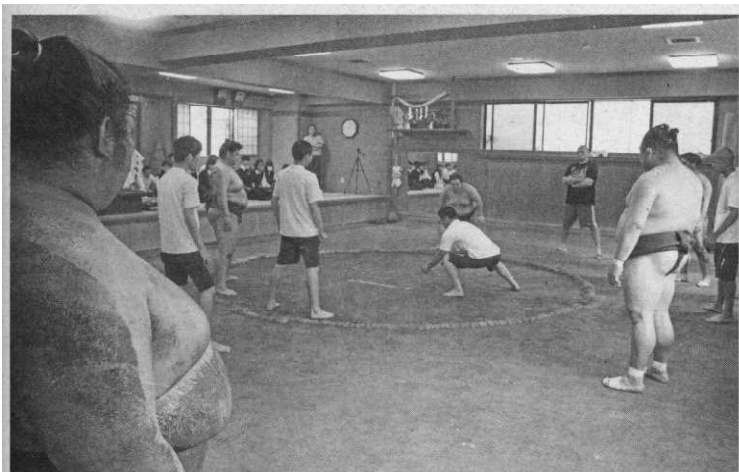
「毎日毎日、力士たちが真剣に稽古に取り組み姿を一度見せたかった」。発案したのは常井校長。元は社会科の教員だが、若い頃、先輩教員に誘われて、県の相撲の教員チームに加わった。そう大きくはない先輩教員の体格を見ていたため、120キを超す巨漢がごろごろしていたチーム環境に驚いたという。国体に6回出場し、2回勝った。

見学に訪れた藤島部屋の親方、元大関・武双山、尾曾武人さんとは、この相撲チームを縁に知り合った。

力士同士の稽古が終わわり、男子生徒らと、教員1人がハーフパンツ姿で四股を踏む指導を受けた後、「もっと低い姿勢で」と掛け声を掛けられながら、土

俵上をすり足で何度も行き来していく。力士の胸を借りたぶつかり稽古では、どんなに低く当たっていても、押し込めなかった。

稽古を体験した男子生徒の1人は「力士同士のぶつかり合いでは、簡単に押しているように思えたが、当たってみると丸太みたい



朝稽古の見学後、土俵に降りて力士の指導を受けながら、四股踏みからすり足、ぶつかり稽古まで、挑戦した生徒たち

で全く動かなかった」と驚いた。

稽古を見学した女子生徒は「テレビで見ていた相撲だが、稽古のぶつかり合いや、ぶつかるときの声を聞いて迫力があった。テレビの見方が変わると話した。中には、部活動での野球の練習を引き合いに出して「短い時間に凝縮した稽古をしていた。自分たちも一つ一つのプレーをもっと全力でやりたい」と、決意を話す男子生徒もいた。

「花いけバトル」に挑戦

地元生産者の支援受け地区優勝

学校の立地する常陸大宮市の特色は、ゴルフ場の多さと、枝物育成が盛んなこと。特に、この地域では耕作放棄地や遊休地の解消に取り組みながら、枝物の産地化を目指しており、花桃を中心に200種類以上もの枝物を生産していることで知られているという。

生産活動を通して地域活性化に取り組む常陸農業協同組合・大宮地区枝物部会の支援を受けて、生徒たちが初めて挑戦したが、第2回全国高校生花いけバトル関東大会。

大会前、希望する生徒を集め、急造した女子ペア3チームが大会前に練習を積んだ。

時には、花いけバトル出場経験のある講師を招いて、心構えや一生懸命さを

アピールする方法なども学んだ。

花いけバトル第一人者といわれる、上野雄次氏を招いて特訓もした。古木を作品に生かした力強さや、花材との向き合い方など、専門家が生徒に作品の代わり映えに目を見張ったという。

練習を重ね、本番環境に慣れるため、全校生徒を前にした公開練習も試みた。

こうして迎えた6月中旬の関東大会当日、大宮地区枝物部会の石川幸太郎部会長は「生徒たちも真剣に練習してきた。最初の頃から比べると、練習の成果が出た。初出場なので楽しんでやってほしい」と話し、見守った。

会場は東京・池袋のサンシャインシティ内の広場を

使った。13高校24チームが出場し、予選ラウンドは3チームが対戦。ペアで一つの作品を創り上げる。時間はわずか5分。机に配置された花器を使い、用意された多彩な花材は、どれを選んでも自由。

一般観客の点数に審査員の点数を加え、予選ラウンド上位4チームが決勝トーナメントに進む。

他のチームの多くは、華道部が参加し、日頃の成果を披露している。

小瀬高校の3チームは、大きな竹を大胆にアレンジしたり、枝物にこだわる作品を創り上げ、決勝トーナメントに2チームが進めた。だが、不運にも、予選ラウンド同様、決勝トーナメント準決勝でまたも2チームが対戦して、決勝戦には1チームしか進めなかった。

決勝では、先鋒同士がまず対戦し、生けた花の点数が明らかになった後、次鋒同士が続いて対戦し、勝負を決する。結果、3-13点対25-2点の大差で、小瀬高校が送り出したチームが優勝した。

勝ち残った生徒らは「今まで生け花をしたことがなかった。やるようになった時、地域の方々が応援に駆け付けてくれ、花材なども提供してくれた。地域の方のおかげでたくさん練習ができ、優勝することができました」と振り返った。

「この優勝は参加した6人のもの。3チーム6人が練習してきた。練習で他のチームの作品も見だし、それに対する指導者からのアドバイスをみんなで共有した。本校は3倍の効果を生む練習をしたから優勝できた」（常井校長）と、出場者全員をたたえた。

優勝したペアは、全国8地区の優勝者らとともに、8月18・19日に開かれる決勝大会（香川県）で頂点を目指す。



予選ラウンドでも仲間のチームと対戦。竹を大胆にアレンジしたチームの作品は、会場を沸かせた



全国大会の切符を手にした小瀬高校チーム。練習時の地元生産者などの協力に感謝の言葉を述べた